

< 2 6 - 1 7 >
2 0 2 6 年 9 月

先生各位

「可溶性インターロイキン-2レセプター」 新規受託開始のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、標記検査項目におきまして、検査委託先よりラテックス凝集比濁法の試薬を用いた検査の受託を開始する旨の連絡がございましたので、ご案内いたします。

何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

■新規受託項目:

項目コード	検査項目名	検査方法
4137	可溶性インターロイキン-2レセプター (s I L - 2 R) (L A)	ラテックス凝集比濁法

- 当該検査の受託開始に伴い、現行の可溶性インターロイキン-2レセプター (CLEIA) (項目コード: 2486) は2026年9月30日(水)ご依頼分をもって検査の受託を中止させていただきます。

■新規受託開始日:

2026年 10月 1日(木)受付分より

<ご案内>

- ・項目コードが新規登録となるため、電子カルテ・健診システム等をご利用の際は、
お使いのメーカーのサポート窓口へ項目紐付けの依頼をご連絡ください。

以上

※ 裏面をご覧ください。

●可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）

インターロイキン-2レセプター(IL-2R)は、分子量 70,000 の p70(β 鎖)と分子量 55,000 の Tac 抗原(α 鎖)と呼ばれている 2 種類のサブユニットからなるタンパク質です。前者が休止期のリンパ球にも発現しているのに対して、後者はリンパ球活性化の後にはじめて見出されるため、生体の免疫機構活性化の指標とすることができます。

リンパ球活性化状態において、Tac 抗原が末梢血中に可溶性の形で存在することが明らかになっており、可溶性 IL-2R(sIL-2R)と名付けられています。sIL-2R は、IL-2 との結合性を保持することから、生体の免疫調節にも関与していると推定されています。

血中 sIL-2R 値は、造血器悪性腫瘍、レトロウイルス感染症、リウマチ、膠原病など、免疫系のさまざまな病的状態で上昇し、病勢を反映する指標として有用と考えられています。

ラテックス凝集比濁法の試薬を用いた検査の受託を開始いたします。非特異反応による偽高値を軽減した改良試薬であり、新現二法の相関は良好です。

なお、この変更に伴い、項目コード、基準値、報告範囲を変更いたします。

変 更 内 容	新	現
項 目 コ ー ド	4137	2486
検 査 方 法	LA(ラテックス凝集比濁法)	CLEIA
検 体 量	血清 0.4 mL [容器番号 : 01番]	同 左
保 存 方 法	冷 蔵	同 左
基準値(単位)	204 ~ 587 (U/mL)	121 ~ 613 (U/mL)
所 要 日 数	2 ~ 3 日	同 左
保 険 点 数	438点(生化学(Ⅱ)判断料 144点)	同 左
報 告 範 囲	55 未満 ~ 9,990,000 以上	50 未満 ~ 400,000 以上
報 告 桁 数	整数	同 左

《新法と現法の相関》

